



世界こども栄養フォーラム 2024
Global Child Nutrition Forum 2024

開催趣意書

(v4.0)

会期:2024(令和6)年 12月9日(月)~12月12日(木)

会場: 大阪国際会議場

主催

世界児童栄養財団 (GCNF)

一般社団法人国際児童栄養振興会 (ICNJ)

ご挨拶

世界児童栄養財団(GCNF)を代表し、世界こども栄養フォーラムが2024年12月9日～12日に大阪で開催されることをお知らせできることを嬉しく思います。このイベントは、「2030年までにすべてのこどもたちが健康的な学校給食を受けられるようにする」という共通の目標を掲げる学校給食連合 School Meals Coalition の公式行事です。

世界こども栄養フォーラムは4日間の会議であり、各国政府が所有する学校給食プログラムについて、政府指導者の相互交流を支援することを目的として毎年異なる国で開催されます。この4日間のイベントでは、政府間の交流、本会議、技術ワークショップ、学校給食プログラムの実地視察などが行われる。最近の世界的な緊急事態や食糧供給の途絶を考えると、学校給食が置き去りにされることなく、国の現在および将来の人的資本の成長への費用対効果の高い投資として優先されるようにすることが、ますます急務となっています。

GCNFは、日本の学校給食と食育の先進的なモデルを長い間尊敬してきました。日本の学校給食プログラムは、新潟県立大学の村山伸子教授によって2019年世界こども栄養フォーラムで発表され日本の学校給食と食育プログラムを世界の聴衆に紹介したことで、もっと知りたいという強い要望が生まれました。2023年には、インドで開催されたB20 Global Dialogue on Food Systems Transformationにおいて、JICAの仲田俊一氏をお招きし、学校給食プログラムの進化と「食育」のコンセプトをご紹介いただきました。日本の先進的な学校給食システムと「食育」の取り組みから学ぶことは、現在そして未来の世界の世代にとって有益です。

SDGsの目標期限が近づくにつれ、学校給食の重要性に対する世界的な認識を高めることがますます急務となっており、日本の先進的な学校給食制度を世界のモデルとして普及させる一助になりたいと考えています。日本の学校給食制度は、学校での栄養価の高い食事を提供するだけではありません。学校給食は、コミュニティ全体に利益をもたらす最もインパクトのある効率的な介入策のひとつであり、SDGsのうち少なくとも8つの目標の達成に貢献することができます。

2024年、同フォーラムは、国連フードシステムズサミットや東京栄養サミットで得られた世界的な機運を踏まえ、栄養と学校給食における日本の制度や取り組みを大きく取り上げます。フォーラムはまた日本のコミットメントの実現を支援し、学校給食連合における日本の主導的役割を強化するものです。

私たちは、学校給食、健康・栄養、教育・文化に関連する日本の革新的で先進的なアプローチを世界と共有する手助けができることを楽しみにしています。

敬具

エグゼクティブ・ディレクター アーリーン・ミッチェル
世界児童栄養財団 Global Child Nutrition Foundation
Arlene@gcnf.org
米国ワシントン州シアトル

開催概要

1. 会議名: 世界こども栄養フォーラム 2024 Global Child Nutrition Forum 2024

2. 主催: 世界児童栄養財団 (GCNF)
一般社団法人国際児童栄養振興会 (ICNJ)

協賛: Rockefeller Foundation、Catholic Relief Services、
(予定) World Vision, Share Our Strength, DSM, Tetra Pak

後援: School Meals Coalition, UN Nutrition, World Food Programme, World Vision.
Counterpoint International, Global Communities,
(予定) 外務省、文部科学省、農林水産省、厚生労働省、こども家庭庁、大阪府、大阪市、
国際協力機構 (JICA)、アジア開発銀行、アフリカ開発銀行、米州開発銀行
Global Nutrition Report

3. 開催時期:
2024(令和6)年 12月9日(月)~12月12日(木) <4日間>

4. 開催場所: 大阪国際会議場(グランキューブ)
大阪府大阪市北区中之島5丁目3-51

5. 出展者:
学校給食とこどもの栄養を支援する関連ミッションを持つ企業や団体 10~15社の出展を見込んでいます。

6. 世界児童栄養財団 (GCNF) とは?

GCNF は、各国政府とそのパートナーが、教育、農業、経済、社会保護、健康と栄養の目標に貢献する質の高い学校給食プログラムの普及率を向上させるために必要な知識、ツール、人脈を得られるよう活動しています。(1)学校給食プログラムに関する世界で最も標準化された包括的なデータベースを構築する「学校給食プログラム世界調査」、(2)学校給食プログラムに焦点を当てた政府指導者や関係者の集まりである「世界こども栄養フォーラム」。GCNF は米国に本部を置き、保健・栄養、政策、マーケティング、コミュニケーション、国際開発など幅広い専門知識を持つ国際的な理事会によって運営されています。

7. 一般社団法人国際児童栄養振興会 (ICNJ) とは?

国際児童栄養振興会は、小林潤教授(日本国際保健学会理事長、琉球大学教授)、村山信子教授(新潟県立大学教授)、栗脇啓氏(元味の素)のリーダーシップのもとに設立されました。ICNJ は、このフォーラムの現地運営パートナーです。ICNJ のリーダーシップは、日本栄養改善学会、

日本国際保健学会、民間企業、国や地方自治体など、現地の団体を巻き込んでいます。

8. 世界こども栄養フォーラムとは？

世界こども栄養フォーラムは、異なる国の政府とパートナーが一堂に会し、質の高い政府主導の学校給食プログラムを実現するための知識や戦略を交換する4日間の会議である。このフォーラムは、世界中の学校給食の専門家たちが、さまざまなセクターや複数の政府レベルにわたって交流するピアツーピアの機会です。このフォーラムは、国家目標に貢献する栄養価の高い自国の学校給食プログラムを持続的に行うための経験、ベストプラクティス、学んだ教訓、課題、アプローチの共有を促進します。こうしたプログラムは、教育の成果を高めるだけでなく、農業開発、経済成長、社会保障、健康と栄養の目標にも貢献する。

9. 参加者：

フォーラムには、世界各国から政府代表、国際組織代表、NGO-NPO 代表、学識経験者、民間関係者など約 350 名が参加する。

- ・**政府関係者** – 政府の代表者が中心となり、フォーラム参加者の主な割合を占める。
- ・**開発パートナー** – WFP、FAO、UN Nutrition などの国連機関、GAIN、開発志向の財団（ロックフェラー財団、ビル&メリンダ・ゲイツ財団など）、世界銀行などがフォーラムに参加し、講演を行うことが多い。学校給食プログラムへの最大の国際ドナーである米国農務省のスタッフも、各フォーラムに出席している。
- ・**国際 NGO**：カウンターパート・インターナショナル、カトリック・リリーフ・サービス、ナセント・ソリューションズ、メアリーズ・ミールズなど
- ・**アカデミア** – 開発、栄養、その他の関連分野に携わる研究機関、大学、または個人がフォーラムに参加する。
- ・**民間部門** – 関連分野（食品製造、加工、栄養強化、保存、台所用品など）に携わる企業の参加を歓迎する。

10. これまでの開催状況：

大阪で開催される本フォーラムは、第 24 回世界こども栄養フォーラムとなる。過去には、アルメニア、ベナン、ブラジル、カボベルデ、カンボジア、カナダ、エチオピア、ガーナ、ケニア、南アフリカ、チュニジア、米国などで開催され、70 カ国以上から最大 400 人が参加しました。

11. 会議の内容

GCNF は、「学校給食プログラムに関する世界調査」で明らかになった各国政府のニーズや、継続的なコミュニケーション、世界的なイベント、最新の研究や実践をもとに、アジェンダを作成する。フォーラムでは、食品・栄養教育、食事の質、現地調達、栄養強化、気候変動、食環境といった主要分野における最新の研究、新たなトレンド、イノベーションに焦点を当てる。フォーラムのアジェンダは、本会議、パネルディスカッション、技術ワークショップ、ネットワーキング、国別交流、地域の学校給食を視察するための学校訪問で構成される。視察では、現地の学校の菜園、給食準

備、給食時間などが見学され、関連する農場、貯蔵施設、その他の関連業務が見学されることもあります。

これまでの全体会議のタイトルは以下の通り：

栄養不良の三重苦
学校給食プログラムと教育
学校給食プログラムと教育
学校給食プログラムの持続可能性と強靭性
チュニジアの全国学校給食プログラム、
地域の視点：MENAにおける学校給食と社会保障

これまでのワークショップのタイトルは以下の通り：

学校給食プログラムの栄養に配慮したバリューチェーン：各国の経験
学校給食プログラムへのジェンダーの統合
学校保健と栄養
学校における果物と野菜の普及を通じたこどもたちの栄養補給
ベナンとフィリピンからの経験共有
食生活と栄養改善のための学校給食の質を測定する新しいツールと方法
より栄養価の高い学校給食のための民間セクターの協力の重要性
学校保健と衛生：学校保健と衛生：補完的活動を通じて ROI を高める
農村の思春期の少女への投資

その他、フォーラムでは、ホスト国の文化や伝統に焦点を当てた開会式・閉会式、晩さん会、展示スペース、フォーラムに参加した政府代表やパートナーの主要メッセージや優先事項を文書化したコミュニケの共同作成などが行われます。

なお、今回新企画として学校給食の効果、社会的インパクトに関する研究成果のポスター発表も予定しています。

12. テーマ

2024年のテーマは「フードシステム変革の時代における学校給食制度」です。

日本開催につき日本の学校給食が持つ特徴や課題について焦点を当てたセッションを設けます。

これまでのテーマは以下の通り：

世界の学校給食プログラムの強靭性と持続可能性のための力の結集
食料・栄養の安全保障と複数の社会的便益のための全国学校給食プログラム
栄養ベースの学校給食プログラムに対する革新的な資金調達

13. 会議スケジュール(案)

	午前	午後	
12月9日	8:00-10:00 受付 10:30-11:30 開会式 11:30-12:30 オリエンテーション	12:30-2:00 昼食 2:00-3:00 全体会議 1 3:00-3:30 CB 3:30-5:30 ワークショップ(3分科会同時) ウェルカム・カクテル	CB:コーヒー ブレイク
12月10日	8:30-10:00 全体会議 2 10:00-10:30 CB 10:30-12:30 ワークショップ (3分科会同時)	12:30-1:30 昼食 1:30-3:00 全体会議 3 3:00-3:30 CB 3:30-5:30 ワークショップ(3分科会同時) 夕方 自由行動	
12月11日	8:30-10:00 全体会議 4 10:00-10:30 CB 10:30-12:30 ワークショップ (3分科会同時)	12:30-1:30 昼食 1:30-3:00 全体会議 5 3:00-3:30 CB 3:30-5:30 ワークショップ(3分科会同時) 夕方 自由行動	
12月12日	8:30-12:30 フィールドトリップ	12:30-2:00 昼食 2:00-3:00 全体会議 6 3:00-3:30 CB 3:30-5:30 自由時間 5:30 集合写真 クロージング・ガラディナー	

14. フォーラムの言語:

アラビア語、英語、フランス語、日本語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語の同時通訳が入ります。

15. ドキュメンテーション:

包括的なフォーラム報告書とコミュニケが作成される。この報告書は、世界児童栄養財団が発行するもので、フォーラムの議事要旨をまとめたものです。コミュニケは、フォーラム参加者の声、優先事項、ニーズを反映した文書です。2022年の報告書とコミュニケはこちらから見るができます。

<https://gcnf.org/wp-content/uploads/2023/03/GCNF-2022-ENGLISH.pdf>

https://gcnf.org/wp-content/uploads/2022/11/Forum-Communique-2022_final-EN.pdf.pdf

16. 会議収支予算

(単位:USドル)

収入	メインスポンサー(ロックフェラー財団)	250,000
	自主資金	75,000
	参加登録費(見込)	50,000
	助成金(見込)	40,000
	出展費(見込)	7,500
	協賛費(見込)	107,500
	合計	530,000
支出	会議場費(4日間、複数会場)	75,000
	飲食費(昼食、コーヒー、カクテル)	70,000
	同時通訳費	75,000
	印刷費(しおり、バッグ、資料等)	16,500
	音響映像	10,000
	スタッフ渡航費	35,000
	スタッフ人件費	121,000
	グローバルチーム渡航費	46,000
	グローバルチーム人件費謝礼	10,500
	準備費	12,000
	ガラディナー	10,000
	参加者渡航費補助	20,000
	撮影費	2,000
	宿泊コーディネーション	2,000
	日本側調整費	25,000
	合計	530,000

(約 79,500 千円)

17. 参加費

参加国の経済状況や団体の性質等により異なります。以下が現在案です。

対象	参加費
低中所得国(2024年世界銀行分類による)および日本: 政府代表者	無料
高所得国(日本を除く): 政府代表者	US\$400
国際機関、NGO、学術関係者	US\$250
民間セクター	US\$500

18. 協賛(スポンサー):

協賛団体は世界的知名度の向上、参加者・インフルエンサーとのネットワーク、プロモーション、世界の学校給食の最新状況の入手等の便益を得られます。以下が現在案です。

ブロンズスポンサー	US\$10,000-29,999	参加登録枠:2人
シルバースポンサー	US\$30,000-49,999	参加登録枠:3人
ゴールドスポンサー	US\$50,000以上	参加登録枠:4人

19. 組織委員会

組織委員会は、世界児童栄養財団と国際児童栄養振興会で構成される。

20. 連絡先:

・Heidi Kessler, Deputy Director, Global Child Nutrition Foundation

世界児童栄養財団 副理事長

heidi@gcnf.org

(US) +1 (954) 651-8197

・栗脇 啓

一般社団法人国際児童栄養振興会

代表理事

keikuriwaki2@gmail.com

携帯: (JP) 080-3415-4386

以上